

嚥下(えんげ) 外来

嚥下外来について

- ①食べ物を認識して口に取り込む
- ②口の中で食べ物を飲み込みやすい形にする
- ③口からノドへ送り込み
- ④ノドから食道・胃へ送り込む

この一連の流れを せつしょくえんげ **摂食嚥下** といいます



様々な要因により、その流れのいずれかが障害され、飲食物をスムーズに飲み込めなくなる事を えんげしょうがい **嚥下障害** といいます。嚥下障害が生じるとムセが頻回に起きたりして、楽しいはずの食事が苦痛なものに変わってしまいます。また、重症化すると食事ができなくなったり、肺炎（誤嚥性肺炎）を引き起こす事もあります。嚥下外来では、そのようにならないよう検査・治療を行います。

対象者

嚥下外来では 嚥下障害の方（可能性のある方）を対象に検査、治療を行います。

診療について

診察場所：総合診療科

診察曜日：水曜日

外来患者のみ **完全予約制**です。

予約について

杵築市立山香病院 地域連携室に連絡をして予約をお取りください。

※かかりつけ医がいる場合は紹介状をもらわれた上で、紹介医から地域医療連携室を通して予約をお取りください。

問い合わせ先：杵築市立山香病院 地域連携室

電話番号：0977-75-1234 F A X：0977-75-1310

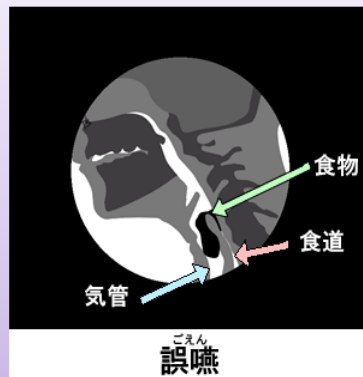
受付時間：8:30～17:00（土日祝日以外）

嚥下機能評価

言語聴覚士による機能評価を元に医師が診療を行います。精査が必要な場合は、VF（嚥下造影）検査またはVE（嚥下内視鏡）検査を勧める場合があります。検査は主にこの2種類となります。それぞれ特徴がある為、患者様に合った検査をお勧めします。



VF（嚥下造影）検査場面



VF（嚥下造影）検査 #1

レントゲン装置を使用し、透視下で造影剤が含まれた食物を食べていただきます。胃の検査と似た方法で口やノドの動きを観察し、食物が食道ではなく気管に入っていないか（誤嚥していないか）確認します。2泊3日の検査入院となります。



VE（嚥下内視鏡）検査場面



VE（嚥下内視鏡）検査 #2

鼻から内視鏡をノドまで入れて、ノドの部分直視しながら食物を食べているところを観察します。日帰りで検査が可能です。

#1 VF 検査を行う場合、2泊3日の検査入院となります。医療費は1割負担の場合、約1万円+食事負担金（1食460円）となります。
#2 VE 検査は日帰りでできる検査です。検査自体の医療費は1割負担の場合、約900円となります。

治療について

治療が必要な場合は、

- ①嚥下訓練：安全な「食べ方」を身につける訓練や「力」を鍛える訓練を患者様に合わせて提案させていただきます。
- ②食環境改善の指導：管理栄養士より料理方法の工夫や食事時の姿勢など、より安全に楽しく食事できるよう指導します。（30分程度）
- ③代替栄養法の指導：口から全量栄養摂取が困難な方には経管栄養法を指導します。

嚥下外来の流れ

地域連携室

電話番号：0977-75-1234

F A X：0977-75-1310

受付時間：8:30～17:00

(土日祝日以外)

地域連携室（当院旧館2階・泌尿器科の隣）に連絡し、
受診日の予約を取って頂きます。

予約した日に外来で診察と嚥下機能評価を行います。

検査必要あり

検査必要なし

検査を行う必要がある場合、
案内をさせていただきます。

※検査は別日に実施します。

検査後

医師より診察・評価結果の
説明があります。

嚥下造影検査（VF）

2泊3日の検査入院

嚥下内視鏡検査（VE）

日帰りの検査

必要であれば医師の指示のもと言語聴覚士や管理栄養士が
助言・指導を行います。

食事の時などに、このような症状のある方は注意が必要となります。

- ・ 食事の時にむせる（食物・水分）
- ・ よく咳が出る
- ・ 痰の量が増えた
- ・ 喉や食道に残留感がある
- ・ 食事後に声質が変わる
- ・ 食欲の低下
- ・ 食事中の疲労感
- ・ 食事内容の変化（好みの変化）
→ 軟らかい物や飲み込みやすい物を好むようになった等
- ・ 体重の変化（やせたり）
- ・ 食事時間の変化→時間がかかるようになった等

